

〔付録〕

外国の地名・人名の書き方

(案)

昭和21年3月

文 部 省

本省で編修または作成する各種の教科書・文書などの国語の表記法を統一し、その基準を示すために、

1. 送りがなのつけ方 (案)
2. くぎり符号の使い方〔句読法〕 (案)
3. くりかえし符号の使い方〔おどり字法〕 (案)
4. 外国の地名・人名の書き方 (案)

の四篇を印刷に附した。この案はその一つである。

諸官庁をはじめ一般社会の用字上の参考ともなれば幸である。

(文部省教科書局調査課国語調査室)

(注意) 縦書きを横書きにし、かなづかいを現代かなづかいに改めた。なお、「外来語の表記」とのちがいを注記した。

外国の地名・人名の書き方に関する方針

1. 外国の地名・人名（中華民国の地名・人名は除く）は，原則として片かなを用いて書き，別表「外国の地名・人名を書くときに用いるかな並びに符号の表」の範囲内で書く。
2. 外国の地名・人名は，なるべくその国の称え方によって書く。
3. 外国の地名・人名は，慣用の固定したものは，それに従って書く。
4. 外国の地名・人名は，発音しやすいように書く。

外国の地名・人名を書くときに用いるかな 並びに符号の表

ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ ワ ン	イ キ シ チ ニ ヒ ミ リ	ウ ク ス ツ ヌ フ ム ユ ル	エ ケ セ テ ネ ヘ メ レ	オ コ ソ ト ノ ホ モ ヨ ロ
ガ ザ ダ バ パ キ <small>ャ</small> シ <small>ャ</small> チ <small>ャ</small> ニ <small>ャ</small> ヒ <small>ャ</small> ミ <small>ャ</small> リ <small>ャ</small>	ギ ジ ビ ピ	グ ズ ブ プ キユ シユ チユ ニユ ヒユ ミユ リュ	ゲ ゼ デ ベ ペ	ゴ ゾ ド ボ ポ キョ ショ チョ ニョ ヒョ ミョ リョ

ギャ
ジャ
ビャ
ピャ

ギユ
ジュ
ビユ
ピユ

ギョ
ジョ
ビョ
ピョ

ウイ

イエ
ウエ

ウオ

ウユ

* クワ

シェ
チェ
ツエ

ツァ

ツォ

テイ

トゥ

ファ

ファイ

フェ

フォ

フユ

* グワ

ジェ

デイ

デュ

ドゥ

ヴァ

ヴァイ

ヴ

ヴェ

ヴォ

ッ (促音符号)

ー (長音符号)

* 「外来記表記の原則」では「クァ」「グァ」としている。

備 考

外国の地名・人名の称え方・書き方を整理統一するには、称え方は原則としてその国の称え方によるのがよいことは言うまでもない。しかし、すでに慣用の久しいものは、これを認めて行かなければならない。ただ、それをどの程度まで認めるかということに考慮の余地がある。「イギリス」「ギリシア」「デンマルク」「レントゲン」などのごときは、原語、原音を離れたものではあるが、すでに広く用い慣れているので、この称え方を認める。「レントゲン」のごときは、同時に原語、原音による「レンチェン」という称え方が一部に行われているが、慣用の広い「レントゲン」の方を取る。

原音に近く書き表わすとしても、それに用いるかなは、一般の国民に発音しやすいものにとどめる。また、「イ」「エ」「オ」、「ジ」「ズ」と同じ音の「キ」「エ」「ヨ」、「ヂ」「ヅ」などのかなは用いることをやめ、精密に書き表わすときには、「ウィ」「ウェ」「ウォ」、「ディ」「ドゥ」とする。「ヴ」は従来かなり広く用いているので、必要に応じて採用する。

撥音を書き表わすとき、「オリムポス」「ゼムメリング」などのごとく、「ム」を用いる書き方も行われているがこの案では「ム」は用いないで、「ン」を用いる。

長音を書き表わすとき、従来「ヨーロッパ」「ヨオロッパ」、「ソシユール」「ソシユウル」などが行われているが、最も普通に広く行われている長音符号「ー」を採用することとする。したがって、「ガレリウス」「コメニウス」などと書けば、「リウ」「ニウ」は、分けて発音する。

促音を書き表わすときは、慣用に従って右側下に「ッ」を書くこととし、「ツ」と区別する。

この書き方は、漢字平がな交り文における書き方である。

この書き方によった外国の地名・人名の例

(アイウエオ順)

アイゼナハ	Eisenach	「アイゼナッハ」とは書かない。 ドイツ語の st の s は、「ス」と書く。 ギリシア語・ラテン語などの ti・tu は「チ」「ツ」と書く。	
アインスタイン	Einstein		
アウグスチヌス	Augustinus		
アクチウム	Actium	語末の (i)a は「ア」と書き、(y)a は「ヤ」と書く。 ギリシア語の ei は、「エイ」と書かないで「イ」と書く。 ギリシア語・ラテン語などの長音は書き表わさない。したがって、「アリステレーレス」などとは書かない。 慣用による。	
アグリゲンツム	Agrigentum		
アジア	Asia		
アリスチデス	Aristeides		
アリストテレス	Aristoteles		
アルゼンチン	Argentine		
アルヘンティーナ	Argentina		
アレクサンドロフスク	Alexandrovsk		スラヴ語などの vsk・vski などの v は、「フ」と書く。
アンチオキア	Antiochia		
イエス	Jesus		
イェーツ	Yeats	「イタリヤ」とは書かない。	
イェーリング	Jhering		
イタリア	Italia		
イブセン	Ibsen		
ヴァチカン	Vatican		
ヴィクトリア	Victoria		
ウィクリフ	Wycliffe	ドイツ語の語末の berg・burg の g は、「ク」と書く。	
ウィッテンベルク	Wittenberg		

ウィルソン
 ウィンデルバント
 ヴェルサイユ
 ウェルズ
 ウェールス
 ウェルフリン
 ヴォルテール
 ヴォルムス
 ウェルテンベルク
 ウルグワイ

 ウルフ
 ヴント

 エウクリデス

 エクアドル
 エジソン
 エチオピア
 エニセイ
 オーストラリア
 オリムポス

 オロヤ

 カイザーリング
 カヴェーニャック
 カトマンドゥー
 カーライル

 ガレリウス

Wilson
 Windelband
 Versailles
 Wells
 Wales
 Wölfflin
 Voltaire
 Worms
 Württemberg
 Uruguay

 Wulff
 Wundt

 Eukleides
 Ecuador
 Edison
 Ethiopia
 Yenisei
 Australia
 Olympos

 Oroya

 Kayserling
 Cavaignac
 Katmandu
 Carlyle

 Galerius

ドイツ語の語末の d は、「ト」と書く。

ドイツ語の語頭の w は、「ワ」「ウィ」「ウ」「ウェ」「ウォ」などのごとく書く。

ギリシア語の ei は、「エイ」と書かないで、「イ」と書く。

「オリムポス」とは書かない。
語末の (y)a は「ヤ」と書く。

ドイツ語の語末の ing の g は、「グ」と書く。

ギリシア語・ラテン語などの (i)us は、「ウス」と書いて、長音符号を用いない。

ギリシア	Greece
キンバリー	Kimberley
Grillparzer	Grillparzer
グレイ	Gray
グレイ	Grey
クックナク	Quaeckernack
ケーザル	Caesar
ケーニヒスベルク	Königsberg
ケニヤ	Kenya
ケンブリッジ	Cambridge
コメニウス	Comenius
ゴールズワージー	Galsworthy
ゴンサルボ	Gonsalvo
サッカレー	Thackeray
ザラツストラ	Zarathustra
サルジニア	Sardinia
シエイェース	Sieyès
シェークスピア	Shakespeare
シエラ・ネバダ山脈	Sierra Nevada
シェリー	Shelley
ジェンナー	Jennar
シャルロア	Charleroi
シュニッツラー	Schnitzler
ジュネーヴ	Genève
シヨ	Shaw

英語の ley は、「リー」と書く。
ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。
英語の ray・rey は、「レー」と書く。

ギリシア語・ラテン語などの長音は書き表わさないが、「ケーザル」「ローマ」は、慣用により長音に書く。
ドイツ語の語末の berg・burg の g は、「ク」と書く。

イスパニア語などの v には、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用いる。
英国の ray・rey は、「レー」と書く。

イスパニア語などの v には「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用いる。

フランス語の oi は、「オア」と書く。

ショーペンハウアー	Schopenhauer
スタンリー	Stanley
ストラウス	Strauss
セルバンテス	Cervantes
ゼンメリング	Sömmering
ソアソン	Soissons
ソクラテス	Sokrates
ダーウィン	Darwin
タキツス	Tacitus
ダンチヒ	Danzig
タンネンベルク	Tannenberg
チェンバレン	Chamberlain
チャンネル諸島	Channel Islands
チュードル	Tudor
チリ	Chile
ツァポリア	Zapolya
ツェッペリン	Zeppelin
ツォルンドルフ	Zorndorf
ツルゲニエフ	Turgenieff
ディケンズ	Dickens
ティチアーノ	Tiziano
テオドゥル越	Théodule Pass
デューイ	Dewey
デュプレックス	Dupleix

ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。
 英語の ley は、「リー」と書く。
 ドイツ語の st の s は、「ス」と書く。
 イスパニア語などの v には、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用いる。
 「ゼムメリング」とは書かない。
 フランス語の oi は、「オア」と書く。
 「ソークラテース」などとは書かない。

nn・mm などには、慣用により、「ン」を加えることがある。

ti・tu・di・du などは、精密には「ティ」「トゥ」「ディ」「ドゥ」と書き、chi・zi などは、「チ」と書く。

ト ッ ー ニ ス	Theunis
ドルトムント	Dortmund
ナ ハ チ ガ ル	Nachtigal
ニ カ ラ グ ヲ	Nicaragua
ニューヨーク	New York
ハックスリー	Huxley
バ セ ド ウ	Basedow
ハ ー デ ィ ー	Hardy
バ ッ ハ	Bach
パラグワイ	Paraguay
ハンブルク	Hamburg
ビザンチウム	Byzantium
ビュッフオン	Buffon
ヒ ュ ー ム	Hume
ファールブル	Fabre
ファン・アイク	Van Eyck
フ イ ウ メ	Fiume
フィリピン	Philippine
フィルヒョー	Virchow
フェービアン	Fabian
フューネン	Fünen
プラトーン	platon
ペ テ ロ	Petros
ペートル大帝	Pëtr
ヘラクリトス	Herakleitos
ヘルダー	Herder
ポアンカレ	Poincaré

ドイツ語の語末のdは、
「ト」と書く。
「ナッハチガル」とは書
かない。

「ホルバハ」「ライヘン
バハ」は、「バツハ」と書
かない。

「プラトーン」などとは
書かない。

ドイツ語の語末のerは、
「アー」と書く。
フランス語のoiは「オア」
と書く。

ホイートストーン	Wheatstons
ホイットニー	Whitney
ホイットマン	Whitman
ホーエンツォレルン	Hohenzollern
ホラチウス	Horatius
ホルバハ	Holbach
ボリビア	Bolivia
マホメット	Mahomet
マルセーユ	Marseille
マレー	Murray
ムリリョ	Murillo
モスクワ	Moskva
ライヘンバハ	Reichenbach
ラヴォアジエー	Lavoisier
ユスチニアヌス	Justinianus
ルクセンブルク	Luxemburg
ルーズベルト	Roosevelt
ルター	Luther
ルノール	Renoir
ロシア	Russia
ロズ	Lodz
ローマ	Roma
ロマノフスキー	Romanovski
ワイマール	Weimar
ワーズワース	Wordsworth

英語の whea・whi など
は、「ホイ」のごとく書く。

「ホルバッハ」とは書か
ない。

イスパニア語などの v に
は、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」
「ボ」を用いる。

英語の ray・rey は、「レ
ー」と書く。

「ライヘンバッハ」とは
書かない。

ドイツ語の語末の er は
「アー」と書く。

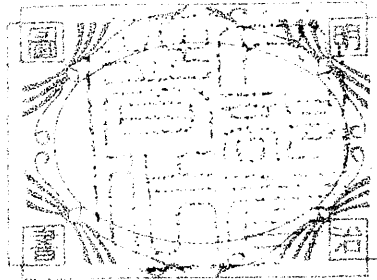
慣用により「ローマ」と
長音に書く。

この案の作成にあたっては、関係諸官庁・諸団体及び学界、
特に市河三喜・今井登志喜・内田寛一・亀井高孝・辻村太郎・
松本信広・村川堅固・山中謙二（アイウエオ順）の諸氏の御協
力をわずらわした。

国語シリーズ 27

外来語の表記

資料集



MEJ 4070

昭和30年3月20日印刷 昭和30年3月30日発行

著作権
所 有

文 部 省

東京都中央区入船町3の3

発 行 者

藤 原 政 雄

東京都板橋区志村町1の1

印 刷 者

鈴 木 森 吉

(日興印刷株式会社)

東京都中央区入船町3丁目3番地

発 行 所

明 治 図 書 出 版 株 式 会 社

電話築地(55)4970 振替東京 151318

定 価 17 円